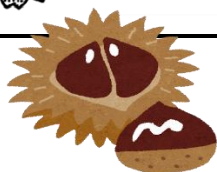




いいの木 10月号



秋がやってきました！

9月19日金曜日、廊下の窓を開けると北からの爽やかな風が。その風に乗って給食のいい香りが入ってくるからたまりません。果てしなく長かった夏が終わり、待ちに待った秋を感じることができた瞬間でした。

体育の時間はもちろん、業間休みや昼休みにも体育館やグラウンドから聞こえてくる子ども達の元気な声。ようやく学校にも“活気”が戻ってきたことを実感します。暑さ寒さを気にすることなく元気に活動できるこの季節、より一層充実した毎日を過ごし、文字通り“実りの秋”となることを願わずにはられません。

さて、先日、ある名門大学、心理学の先生の話聞く機会がありました。

「大学の授業で、学生に『この件に関して、同じ意見の人同士でグループを作って意見交換を下さい』と指示することがよくあります。しかし、どんな議題かにかかわらず、同じメンバーで集まります。それに対して、『なぜだ』と問いただすと『たて同じ意見だとわかっていても、普段一緒にいない人だと、何かを言ったときに、それについてどう思われるか不安だから』と言うのです」と。

この傾向はもちろん大学生に限りません。この話を聞いて、ある高校の先生の話思い出しました。

「クラス全体はおろか、7, 8人の小集団を前に意見を求めても、見事に誰も何も言わない。なぜ?と聞くと、『自分の意見を言ったら、そのあと影(SNS等)で何を言われるかわからないから』。」



コロナ禍の“マスク”に象徴される「みんなと同じでなければならない」という日本人特有ともいえる同調圧力は、子ども達から“自分らしさ”“自分なりに考える自由”を奪い、精神的により窮屈な生活を強いることになっているのではないかとも思えるのです。

高校の先生の後日談です。「それじゃダメでしょ。まずは自分の考えを持つこと、それをしっかり相手に伝えること、それから相手の考えもしっかり受け止めること、これを繰り返さないと、本当の仲間なんてできないよ。と繰り返し指導したら、子ども達の人間関係も一人一人の表情も格段に変わりました」と。

今や、困りごとの相談相手はAIだ、という人まで現れました。しかし、やはり人が人として生きていくためには、人とかかわりが必要不可欠です。小学生の頃から人とかかわることを肌感覚で学び、人に何かを伝え、また人から何かを学び取る習慣を学校生活の営みを通して身に付けていくことは、何より大切なことだと感じます。11日はミュージックフェスタ。これもまた、友達と声をかけながら学年の団結力を高め、友達との関係を深め、そのかわりの中で自分を磨いていくチャンスにしてもらえたらと願うばかり。当日、頑張る子ども達に温かい声援を送っていただけたら幸いです。応援、よろしくお願いします。